

Campus Today



誇りを胸に、大きく羽ばたけ!

卒業証書・学位記授与式、初の大学院修了者も



小澤学長より卒業証書・学位記を授与される加藤菜緒さん

三月九日(木)、二 五年度松本歯科大学・松本歯科大学衛生学院卒業証書並びに学位記授与式が挙行された。式は初めて歯学部、大学院、衛生学院の合同で行われ、会場の講堂は卒業生やご父母をはじめ大勢の関係者で埋め尽くされて、まさに新たな門出を大学全体で祝つに相応しい式となった。

式に臨んだのは歯学部第二十九期生七十五人、大学院歯学独立研究科第一期生一人、衛生学院歯科衛生士科第二十九期生三十二人、歯科技工士科第二十八期生二十四人、歯科技工専修科一人の合せて百三十五人。大学院第一期生は、極めて優れた研究業績により三年間での早期修了が認められたもので、本学における課程博士第一号と第二号の記念すべき栄誉を担うこととなった。矢ヶ崎 康理事長は、創立者・理事長のことはとして、現在の歯科医師国家試験制度や医療制度における合的文化の土台がないために、学者

たちが狭い専門分野のみにしがみついて、そこから派生した学びの力をもち、科学と称している」と解説。卒業生には、「さまざまな人との出会いから知識や教養を吸収し、インテリジェンスあふれる科学者として育ってほしい」とはなむけの言葉を贈られた。

次いで卒業証書並びに学位記修了証がそれぞれ卒業生・修了生一人ひとりに授与され、歯学

新入生へ贈るメッセージ

チャレンジスピリッツ

法人本部長 矢ヶ崎 雅

二十一世紀に入ったかと思つ間に、早くも五年が経ちました。デフレ感で逼塞(ひびく)していた日本経済も、何とか多少の活気と明るさが目立つようになって参りましたが、心配していた人口問題では、早くも自然減現象が現実のものとなり、今後の我が国の社会構造や、国民生活の諸問題の上には、各般の検討と施策が緊要のものとなって来ております。

こうしたなか、松本歯科大学は、改めて建学の理念を回想し、これを土台として日本社会のあり方と、その中で本学の社会的使命と存在意義の再確認を強調していきたいと考えております。本学は、改めて言うまでもなく、歯科医学の分野で、その学際領域をも含めたプロフェッションとして社会に不可欠な人材の育成と供給を担い、かつ、これが在学生のみでなく第一線のプロフェッショナルにも影響を与え得る実力をも持つものでなくてはなりません。

このためには、高度の専門分野の学理と技術の両面をマスターし、これを縦横に駆使し得る、更なる正しい科学方法論の確立が盤石となつていかなければなりません。そうした観点から、新入生の皆さんがそのようなインテリジェンスとプロフェッションを目指し、明るく、陽気に修学と自己研鑽(けんくわん)できるように、一日も早く自然のうちに身につけて頂きたいと願っております。

そのために本学としては、第一学年の皆さんは本年度から一部教職員と共に真新しく新装されたキャンパス・インで共同生活を営んで頂くことになりました。中学、高校とたくさんの方を学んで来た皆さんではありませんが、大学では更に深く実践的に学ぶことが要求されていきます。そこで、本学としては皆さんが不幸にも今まで取りこぼしてきたと思われる教科の内容をこの数年間で取り戻すためのカリキュラムも考えられています。

本学は、複雑多岐で困難な歯科医学を学ぶ大学です。歯科医師になるための専門的学習や知

二十一世紀に羽ばたいてほしい」と励ましの言葉を贈った。また笠原悦男衛生学院院长は、社会人として歩み出す衛生学院卒業生に勇気を与える温かいメッセージを贈った。

最後に歯学部卒業生を代表して内藤洋介君、衛生学院卒業生を代表して若下博幸君がお礼の言葉を述べ、卒業生・修了生一同は恩師やご父母に見送られながら会場を後にした。

識はもとより、上級に進むにつれて哲学から経済学、法学に至るまでの相当の常識的知識を頭に叩き込むことが要求されるのです。

また、卒業後多くの皆さんは歯科医師として勤務をこなす社会に奉仕する事になりますが、それにも充分耐えられる体力作りもこの数年間を基礎にして習得します。だからといって特別に身構える必要はなく、怠け心さえなければ十分です。

朝一番から夕方までしっかりと生活習慣や正しい学習生活、体力作りなどを身につけて立派に進級をしていっていただきたいと願い、こんな願いから新キャンパス・インなるものを創りました。この施設での規則は日本国憲法に定められている法律を遵守すること、加えて言つたらば人や社会に迷惑をかける、及び、知らぬ間に愛を以て生活することのできる人間が目的です。

各個室にはバス、トイレから家具に至るまですべて揃えられ、さらに週一度の部屋の掃除から、ベッドシツツ、カバー、リネン類の交換も業者がおこないます。勿論各人の清潔心も望まれます。

親元を遠く離れ新生活に踏み出す皆さんが、心配かけぬよう健康で明朗、有意義な学生生活を過ごせるよう一生懸命に当たる決意であります。

「山笑」野のさざ波の光満ち(手塚順)。

お天気歳時記

元日本気象協会調査役 お天気コンサルタント 有賀 淳



五日は清明。「万物清く明るく活気に溢れる」日。春たけなわである。日脚が伸び、このころの昼間の長さは残暑の厳しい九月上旬と同じで、のどかに晴れた日中は汗ばむほどに暖かい。この暖かさに押されるように、タンポポやサクラの花前線が北日本目指して北上し、暖地では山つつじが咲き、キアゲハが舞い始める。

花咲くころは、農作業の始まりでもある。昔からサクラは「田打ち桜」といって農耕の時期と決めていた。

現在でも全国の気象台で「生物季節」の観測が続いている。ウメ、サクラ、アジサイなどの開花日や、イチヨウ、イロハカエデの黄(紅)葉日などの「植物季節」、ツバメやセミなど鳥や昆虫の初見日、初鳴日など「動物季節」の観測である。

動、植物は気温や湿度、風など、さまざまな気象要素の総合された天候の影響を受けて成育するので、生物季節の観測結果からその季節の遅れ進み、天候の地域による違いがよく分かります、農作業などに役立っている。ところが、気象台から気象庁に寄せられる動、植物の動きの報告が、昭和四十年代からめっきり減ってきて、観測を中止した種類もでてきている。農業の使用や都市周辺の宅地化が進んだためである。

二十日は穀雨。「暖雨に降るおい百穀育つ」という日。野山には木々の新緑が出揃う。新緑は銀色あり、黄色あり、赤色あり、うす緑ありで希望にみちみちて輝いている。

第三種郵便物認可

永田町便り

(128)



年が明け、通常国会が始まって誰かが新しい気持ちで国会審議に臨んでいた。

本予算の審議が衆議院で始まって十日が過ぎたころ、まさにドタバタ劇としか言いようがない民主党・永田寿康衆議院議員の「偽メール」問題が起った。

視点



本学の学事課主幹阿部康之氏から、日本教育界の所謂二〇〇六年問題に関する長文の「報告書」のあらましと意見書」を頂いた。読むほどにその熱意のほどが窺われ、頼もしくも嬉しく感ぜられた。最初のほうに「この重要な事柄について多くの日本人は無関心」と嘆いておられるが、何にも無関心、無責任、人任せというのが現今日本人の大きな特徴で、なまじ多少の知識だけで動かれると逆作用が生まれて迷惑するのは学校側ということになりかねない。

一九七六年十二月の中央教育審議会答申から始まった所謂ゆとり教育のこと。この推進によって生まれた教科の廃止と新設、選択教科の拡大と授業時間削減などに関する隔年度にわたって改められてきた学習指導要領とその実践、小、中、高校の

党の武部 勤幹事長の二男に送金を指示した電子メールを入手した。武部幹事長は金で魂を売った」と発言した。

偽メール問題を思う

参議院議員 本学理事 法藤道夫



永田議員の謝罪会見後に、民主党はこのメールを偽メールと認め、遺憾の意を表明した。野田佳彦国会対策委員長は、野田山由紀夫幹事長への厳重注意、永田議員の半年間の議員資格停止の処分を行った。民主党としてはこの辺りで幕引きとしたか

た」というのが、メールが本物だと信じた理由らしい。本学にこの程度の理由で、予算委員会でのあの発言に至ったのであろうか。情報提供者にも直接会っておらず、仲介者に送金メールの電磁記録の提示を求めたものの、提示はなかった

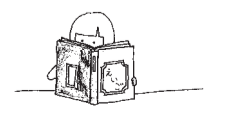
今回のような情報が寄せられた場合、相談を受けた幹部は永田議員の話聞き、その情報が本学に真正なものと判断した場合のみ、国会での質問を許可するはずである。

四月は、日本では桜とともに入学・進学と新規スタートの月ですが、アメリカではいよいよこれから卒業のシーズンを迎えます。

何故、永田議員はこのメールを真正と判断したのであろうか。同議員によると、「仲介者はフリーの元記者で全幅の信頼を置いていた。仲介者によれば情報提供者は送金にも係わっていない。銀行口座の情報も提供され

詳しい議員が大勢いる。そうした専門家に相談すべきだったろう。

カールソンの英語!!!



子供たちはその都度さまざまにいじくられて次第に上級、下級の一貫した話ができなくなってきた。不思議なことに大人の世界では、「良かれ」と思って実践したこの教育改革の方向が、二〇〇二年を越える頃になると大学側より学力低下という声がかさねて来る。勿論教育学的見地からすると、下級は上級のための準備段階ではない筈である。だが全く上級の性格を無視しての受験学習にも困りものだ。この混乱には収まる時期があるだろうか。最早遅きに失した感がある。日本の学校教育は既に焦ればあせるほど深みにはまってしまつた大きな矛盾を孕んでしまっている。しかも少子化という問題も具体的大問題としてその前に立ちはだかっている。

のほかならぬ当時の文部省であった。そのとき日本人民は教育の解放の何たるかが全く理解できず、すべて文部省に任せきりであった。つまり教育をわが手に取り戻すなどといった意識は殆ど持ち合わせていなかった。現存するあの素晴らしい「教育基本法」は、敗戦時、懇請されて文部省学校教育局長に就任された(後、文部大臣)故田中耕太郎先生の全く独自で纏められた崇高な日本の「教育の宝」である。当時文部省は過去の罪業の故にGHQにより内務省、司法省について解体の危機に晒されていた。しかし田中先生の手による天皇制的国家主義教育理念の払拭、中央と地方の教育の官僚的統制からの解放、師範教育の改革と教育者の待遇改善、文部行政官の教育権の放棄(援助と助言のみ)などなどの実践

の褒賞から、危うく死一等を減らされて現在に生き延びることになる。一九四八(昭和二十三)年のことだった。それでも文部行政官のなかには、昔を懐かしむ人たちが未だ保守系政治家と共に多く混在しており、折を見ては失地奪回の夢を見ていた。そして一九五〇(昭和二十五)年、五三年の朝鮮戦争を契機とする逆コース風

最近になってその当時のサンブルが非常に良い状態で発見され、spectrophotometer(分光光度計)で測つた結果、本来のカラーが再発見されたということです。

戦後日本の学校教育の変遷について

新教育破壊への軌跡

創立者



耕太郎先生の全く独自で纏められた崇高な日本の「教育の宝」である。当時文部省は過去の罪業の故にGHQにより内務省、司法省について解体の危機に晒されていた。しかし田中先生の手による天皇制的国家主義教育理念の払拭、中央と地方の教育の官僚的統制からの解放、師範教育の改革と教育者の待遇改善、文部行政官の教育権の放棄(援助と助言のみ)などなどの実践

の異常な学校という場所で学ぶほかないのだ。教育委員の任命制発令と新教育喪失以来もう日本には本来的な学校というものは破壊されてしまっている。正常だったプラグマティズムの世界から先ず抜け出て、日本の慣習的常識(自己流教育)の上に胡坐をかき、その都度主義的改革をやりはじめるといには際限なき手直しが始まり、教育学的理性などどこかに吹きとんで真

四月は、日本では桜とともに入学・進学と新規スタートの月ですが、アメリカではいよいよこれから卒業のシーズンを迎えます。

学力・課外活動・皆勤・精勤の 努力を称えて 栄誉の表彰



前列左から 加藤菜緒(矢ヶ崎康賞・皆勤賞)、田中一吉(矢ヶ崎康賞・皆勤賞)、
内藤洋介(矢ヶ崎康賞・皆勤賞)、高野柳一(学長賞)、牧井覚万(学長賞)、
水木雄亮(学長賞)、村上剛一(学長賞)
後列左から 金山亜希(皆勤賞)、森田斉志(皆勤賞)、笠島裕美(精勤賞)、
亀井秀憲(精勤賞)
以上第29期生11人

主張 「学ぶ楽しさ」を見つけて出よう

新たな学年がスタートする。希望に胸をふくらませたフレッシュマンたちが歯学部、衛生学院、大学院に入学してくる。このキャンパス・トゥデイをはじめ、読む諸君に、「自由の学園にようこそ」と、心からの歓迎のあいさつを贈りたい。

矢ヶ崎 康先生(現理事長)の建学の理念にもとづいて創立されたわが学園は、諸君がこれまでに経験してきた高等学校や予備校とは本質的に異なるものである。ここには「偏差値」というお化けは出ない。みずから学ぶとする者に「学問の楽しさ」を見出してもらったための「本当の大学」なのである。

世の中には大学のランキングなるものが存在していて、入学者の偏差値で順番をつけている

らしい。医歯薬系大学でいえば東大理をトップとする序列ができていて、歯科大学のなかにも「伝統を誇るうちの大学は…」などと他の学校を見下して威張るタネにしたい輩もいるようだ。大学受験の合格率のみを関心事とする予備校や進学校ならばいざ知らず、「学問の場」としての大学にとっては、まったくふさわしくない阿呆らしい話だ。そもそも人間を育てる学校、あるいは人間そのものをランクづけよつというものが、とんでもない間違いである。江戸時代までは土農工商という厳しい身分制度が守られていたし、わずかに六十年前までの大日本帝国でも、宮中席次などですべての国民に序列が定められていた(人間どころか神様も全国の神社

人材育成に「学」の立場から提言

産学公民・人づくりフォーラム

塩尻市主催の「産学公民・人づくりフォーラム」が三月二十日(月)、塩尻市文化会館レザンホールで行われ、本学の小澤英浩学長がパネラーのひとりとして意見発表を行った。

本フォーラムは、「なぜ学ぶ、なぜ働く、次代を拓く人づくり・地域づくり」をテーマに小口利幸塩尻市長がコーディネーターを務め討論が進行した。ステージ上の産学公を代表するパネラーは、小澤学長のほか長野県知事・田中康夫氏、信州大学工学部教授・遠藤守信氏、セイコーエプソン株式会社代表取締役社長・花岡清一氏の四人。小澤学長は「学」の立場から



パネラーとして意見発表する小澤学長

いうなら、そこを巣立った卒業生の貢献度で評価すべきだろう。悪徳政治家や汚職官僚を輩出させている某国立大学などには、良い評価が与えられるはずもない。医学領域でいえば、古くは「悪魔の飽食」で悪名高い七三部隊や米軍捕虜人体解剖事件、近年では薬害エイズ事件などにかかわった医師たちの多くは、旧帝国大学卒の秀才であった。逆に、彼らからは軽侮されてきた旧医学専門学校卒でも、恵まれない人びとの救済や地域医療への献身などで、本当に尊敬すべき医人が数多く存在したことを、私たちは記憶に留めておかなければならない。

国立(国立)学校が偉く、私立は劣るなんてのは、前時代の官尊民卑(お上)が偉くて民衆は卑しい(お下)の名残にすぎない。江戸幕府の最高学府であった昌平黌(お茶の水の湯島聖堂付近にあった)と、萩に吉田松陰が開いたあばら家同然の松下

ベーシオンは、皆の本当の幸せを願う慈しみの気持である。本学では、教育は愛であるとの理念の基に、慈しみの心、科学する心、考える力を持った医療人を育成するための全人教育を行っている。大学が果たすべき役割には、地域社会に貢献できる人材の育成とともに国際的な研究者の育成がある。大学院・総合歯科医学研究所は、生涯教育・産学官連携の研究拠点として活発な研究活動を行っている。

次に、日本の大学が抱える、ゆとり教育の弊害とされる諸問題について、学生の基礎学力の低下、日本文化に対する自覚の欠如などを指摘、それらの課題

4月より「一般歯科」を新設

大学病院新診療体制

本学病院では、新臨床研修医制度および学部新カリキュラムに対応するべく、三年来、診療科長会をはじめとして、各種関連委員会等、その実施方法、環境整備等について検討を重ねてきたが、その結果を受けて、この四月一日から新システムで運用することになった。

そのために従来設置されていた総合診療科を発展的に解消し、保存系診療科、補綴系診療科、口腔外科を一元化した「一般歯科」が新設・整備された。この「一般歯科」では指導歯科医、研修歯科医、歯科衛生士、臨床実習生などで構成するグループ制、チーム診療を行う。その趣旨は研修歯科医がGP(一般歯科診療医)として基礎的・総合的診療能力を、また臨床実習生が卒業後臨床研修にスムーズに移行

を踏まえて大学の初年次教育が大きく変わってきていること。さらに教育改革を進めるなかで、PBL教育の導入など新たな取り組みが行われている。将来的には、米国の教養大学(四年)から専門大学(四年)へ進むようなスクール化も視野に、ゆとり教育の弊害を克服し、さらに優秀な歯科医師を育てる体制の確立が必要だと説明した。

最後に、切れる、不登校などの子どもが増えている社会問題に触れた。これは、乳幼児期にいかにも愛情豊かに育てられたかにより、特に、意思・思考・創造などを司る前頭野の発育に大きな影響を与える。それは、乳幼児期

するための卒前診療能力を、それぞれ修得できるようにするためである。

併せて、本システムの活用により、いわゆる標榜科名である「歯科」診療が一般歯科診療室で行われることになり、患者さんにとっても、受診診療科の移動が少なくなり、受診時間の短縮や来院回数が増えるメリットが生じる。また病院にとっても、診療場所を共同使用することにより、医療従事者のいわゆる「歯

の愛情によって脳の基本構造や感性が決まってくる」と言っても過言ではないと締め括った。

今の長野県を代表する四人のパネラーの討論に会場に詰めかけた大勢の聴衆は、それぞれの立場からの意見や見識に、次代を担う子どもたちをどう育てたいか、地域として何をすべきか、今一度考える良い機会となったようである。

現在の混沌とした社会情勢のなかで、明るい未来を指針する明確な意見に熱い思いで耳を傾けた人も多かったことであろう。ステージを去る四人のパネラーに惜しみない拍手が会場から贈られ、閉幕した。

科「診療の省力化、機器備品・消耗品類の共用による経費削減などの効果が期待できる。」

なお、現在、病院内で標榜されている、上記の各診療科、矯正歯科、小児歯科などの十一診療科は、それぞれ専門診療科として、従来通りの運用を行い、大学病院として本来の目的を果すべく地域医療、臨床研究、歯科医師の養成等のために尽力することに変わりはない。

(病院長 甘利光治)

み、それぞれ皆真剣な面持ちで質問に答えていた。

研修歯科医内定者は、四月五日(水)の第九十九回歯科医師国家試験の合格をもって研修歯科医師として採用される。



希望の診療科担当者と面接する研修歯科医内定者

第三種郵便物認可

大学院セミナー

3月に開催された2回の大学院セミナーからB. J. Sessle先生のセミナーを紹介します。

・16日 早稲田大学理工学部電気・情報生命工学科教授 吉岡 亨先生

口腔顔面の運動技能の学習や歯の変化への適応に対する 大脳皮質の可塑性の役割

トロント大学歯学部教授

B. J. Sessle 先生

第111回大学院セミナーが、Barry J. Sessle 先生 Professor, Faculty of Dentistry, University of Toronto, Canada を講師にお迎えして、3月15日に開催されました。



講演するセッスル先生

セミナーは「Cortical plasticity and its role in learning of orofacial motor skills and in adaptation to an altered dentition.(口腔顔面の運動技能の学習や歯の変化への適応に対する大脳皮質の可塑性の役割)」と題して、Sessle先生の最新のデータを中心に解説していただきました。

Sessle先生は長年、口腔機能に関する神経生理学的な研究で世界をリードされてきました。IADR(国際歯科医学研究会)やIASP(国際疼痛学会)の会長を歴任され、全世界で彼の影響を受けた数多くの研究者が研究を行っています。

まず、大脳皮質一次運動野顔面領域が随意的な舌運動に重要な役割をもつこと、さらに、この領域が咀嚼や嚥下といった半自動調節性の運動に対しても重要な役割をもつことを示されました。また、大脳皮質一次運動野顔面領域における神経ネットワークなどの可塑性な変化が、訓練された随意運動の獲得に関連して起ること、切歯の削合や抜歯といった口腔の変化に対応して起ることを、動物を用いた皮質内微小電気刺激法やヒトを用いた磁場刺激により明らかにされた点について解説されました。このように、まだまだ不明な点が多い咀嚼・嚥下に対する大脳皮質の役割の一端が、徐々に解明されつつある世界の動向を示していただきました。

本セミナーでは、本学大学院の増田裕次教授が専門用語の解説を随時加えるという形式で行われ非常に分かりやすくなりました。世界の第一線で活躍する海外の研究者と触れる機会を持つことができ、大学院生の研究に対するモチベーションを高める良い機会になったことでしょうか。さらに、大学院セミナーとして開催されましたが、咀嚼・嚥下という歯科臨床にも直接関係の深いテーマにおける国際的見地を知ることができることとあって、大学院生だけでなく教員や医員の先生方も数多く出席され、活発な意見交換がなされました。海外研究者による本セミナーが、参加された先生方の研究や臨床にとっても有意義なものになったと思います。

(大学院顎口腔機能制御学講座 教授 増田裕次)



宣誓する百瀬千草さん

歯科衛生士科第30期生

戴帽式

キャップに込める爽やかな決意

衛生学院歯科衛生士科第三十期生の戴帽式が二月二十八日(火)講堂にて厳かに行われた。この戴帽式は、四月から大学病

院で始まる臨床実習を前に、学生たちが決意を新たにする節目の儀式でもある。

式では、役員や教職員、第二学年の先輩たちが見守るなか、三十期生一人ひとりが壇上上がり、笠原悦男学院長より淡いピンクのキャップを受けた。戴帽した学生たちの表情からは、感動とともに、キャップに込められた責任の重さを生徒忘れないことを心に誓う、爽やかな決意がうかがえた。

市内の企業が多数参加して開催

ものづくり産学公連携の夕べin塩尻

「今日の緊張感を忘れず、常に初心にかえり緊張感を持って臨んでください。そのことが百パーセントの仕事

塩尻市商工会議所主催によるものづくり産学公連携の夕べin塩尻が、本学図書館を会場に開催され、市内の企業から多数の関係者が詰めかけて、連携事業報告に耳を傾けた。

まず、二〇〇五年度の塩尻市産学公連携事例が報告され、大学院顎口腔機能制御学講座・増田裕次教授と株式会社プロシードによる「口すばめ測定装置」の開発、歯科理工学講座・伊藤充雄教授らが携わった有限会社エフアンドエフによる「香炉ぼつぽ」の開発などの事例が報告された。

また総合歯科医学研究所硬組織疾患制御再建学講座・溝口利英助手による松本歯科大学産学連携事例報告「天然由来の素材

と骨形成」では、自然界に存在する素材の骨形成への有効利用と食品加工への応用について報告がなされ、注目を集めていた。

に繋がります。皆さんは、知識・技術以上に医療に携わる人として、人を思いやる心愛を以て相手と接することが大切です。この気持ちをいつまでも持ち続け、歯科衛生士として大きく羽ばたいてください」と激励のこ

とばを贈った。第一学年を代表して百瀬千草さんは、「臨床の場に臨むにあたり、最善の力を尽くして歯科衛生の向上に努めます。技術を磨き、知識を吸収し、勇気を以て、学んだことを実行します。さらに人に対しては思いやりの心と笑顔を以て接します」と力強く宣誓した。

臨床の場で学ぶことを認めら

れた三十期生二十九人は、これから一年間の病院実習を通して、実践的な技術や知識を身に付け、専門医療人である歯科衛生士を目指していく。充実の学院生活もいよいよ最終段階を迎えるが、明日の歯科医療を担うという各自の使命感と情熱に一層期待したい。

本学倫理学の倉持 武教授が監訳した「治療を超えて バイオテクノロジーと幸福の追求」(青木書店 六千五百円・税別)が今話題となっている。この本は、米大統領生命倫理評議会が二、三年に提出した報

『治療を超えて バイオテクノロジーと 幸福の追求』



編著：レオン・R・カス
序文：ウィリアム・サファイア
監訳：倉持 武

新刊本紹介

告書の全訳で、人間の遺伝子操作、老化遅延技術など、「治療を超えた」向上/強化/増強(エンハンス)を目的としたバイオテクノロジーの進歩に関する生命倫理上の諸問題をテーマとし、バイオテクノロジーによる人間の生命や感情への介入に懐疑を投げかけ、人間の本来にまで踏み込んで論究している。「中央公論」六年二月号のブックレビューでは、大阪府立大学の森岡正博教授が「注目すべき本である。生命倫理に関心のある者は、かならず目を通しておかないといけないだろう」と絶賛。書評「図書新聞」六年一月号でも浜松医科大学の森下直貴教授が本書を取り上げている。医学・歯科医学に携わる者の必読の書であるといえよう。

Economic News

内外の経済 3月28日付

日本	16,690.24円
米国	11,154.54ドル
金地金店頭価格(消費税込み)	
売り(1グラム)	2,253円
買い(1グラム)	2,191円
白金地金店頭価格(消費税込み)	
売り(1グラム)	4,249円
買い(1グラム)	4,124円

東京外国為替相場と各国定期預金金利(3カ月物)		
米ドル	116.50円	3.27%
英ポンド	203.50円	1.94%
ユーロ	139.95円	1.03%
スイスフラン	89.05円	0.01%
タイバーツ	3.00円	0.01%
日 円		0.02%

(シティバンク調べ)

27日(木) 28日(金) 大学院関連研究発表会

20日(木) 交通安全講習会

17日(月) 授業開始(第1学年・衛生学院第1学年)

10日(月) 入学時研修(第1学年)

8日(土) オリエンテーション(第6学年)

7日(金) 松本歯科大学入学式

6日(木) Campus Inn 入室説明会

5日(水) 第99回歯科医師国家試験合格発表

4日(火) オリエンテーション(衛生学院第2学年)

3日(月) オリエンテーション(第2・3学年)

2日(日) 入学式

1日(土) 入学式

受験生の皆さんへ

見せてほしい 君の個性 君の情熱

進学ガイダンス

東京会場 帝国ホテル (5Fカンファレンスルーム)

5月13日(土) 10:00~17:00
14日(日) 10:00~15:00

大阪会場 帝国ホテル大阪 (1Fビジネスセンター)

5月20日(土) 10:00~17:00
21日(日) 10:00~15:00

お問い合わせ
HOTLINE 0263 54 3210
松本歯科大学 広報課
www.mdu.ac.jp

4月行事予定

- 4日(火) オリエンテーション(衛生学院第2学年)
- 5日(水) 第99回歯科医師国家試験合格発表
- 6日(木) Campus Inn 入室説明会
- 7日(金) 松本歯科大学入学式
- 8日(土) オリエンテーション(第6学年)
- 10日(月) 入学時研修(第1学年)
- 10日(月) オリエンテーション(衛生学院第1学年)
- 17日(月) 授業開始(第2・3学年)
- 20日(木) 交通安全講習会
- 27日(木) 28日(金) 大学院関連研究発表会